

公表	事業所における自己評価結果
----	---------------

事業所名	児童発達支援センターつぼみ		公表日				令和7年 2月 1日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	13		適切にスペースと人が設定されている 人数に合わせて部屋をわけている 適切な人数で活動しています 活動に応じて部屋を変えている 空間に職員に児童は適切であるが、時に児童の特性を踏まえた環境調整がされていない時がある	医療的ケア児等が入所してきた際の部屋の確保が課題となるため、時間での使用変更等の工夫が必要	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	13		適切である こどもの特性に応じて配慮を行っている 子どもに危険のない配置人数は確保できていると思う こどもの状態によっては、もう少し職員数が欲しいと思うこともあります 職員の休み等で人数が足りなくなる時もある 人員確保はできているが、児童の状態を把握せず多くはないからと一緒にしている時が多々ある	4：1の職員配置以上ではあるが、マンツーマン対応の子どもも多くなってきている。職員の関わり方や特性理解した上でのサポートでの判断が職員全員に求められていく 職員の休みが増えた場合の配置での工夫が必要となる。使える部屋や安全確保も考慮していかなければならない	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	11	2	写真や絵つきでわかりやすい バリアフリー化はされているが、障がい特性に応じた配慮が適切か疑問 気になるところがあれば改善している こども達にわかりやすく過ごしやすいよう視覚化された物を上手く活用している 視覚的にわかりやすく感じないと感じる コミュニケーションツールとして視覚優位の児童に対して口頭指示が多く見られる。専門性を高めていく必要があると感じる	できる中での環境整備を図っている。今後もできる中で職員協力の元整備していきたいと思っている	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	11	2	毎日掃除、汚れも都度取っている 毎日の掃除により清潔な環境ができている 生活空間は清潔だが、活動に合わせた視覚支援がなく心地良いとは言えない 毎日当番を決めて清掃を行っている ランチルームは掃除ができていないので、パートが現在児童が少ない時に行っているが個々が気づきせめて玄関、靴箱の上、棚等清潔保持務めていなければと思う	毎日清掃を行っている。直ぐに対応できない清掃箇所もあつたりするため、気が付いた時点で簡単なふき取り等での対応をしている。今後も職員で意識しながら対応ができていけばと思う	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	13		狭くて物もなく落ち着ける部屋がある 子どもの様子に合わせて個別の部屋を使用し対応している 活動以外での個室があり、落ち着ける所になっていると思う 声かけ等で個別に活動できるようになっている 児童の状態に応じて部屋の移動し、個別に対応できている	子どもの活動に合わせて部屋を分けている。 今後医療的ケア児が入所して来た際には、どの部屋で対応をしていくのかをきちんと打ち合わせをしながら現在ある部屋の個数で工夫して受け入れをしていきたいと思う	

業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	11	2	毎週会議があり、業務改善にむけての話し合いができています 目標設定をしても結果の振り返りがないため、広く職員が参画していない 問題があればその都度改善している 月に1回パートを含めた全体会議を行っているが、日々の振り返り、気づき等はできていない。情報交換、共通理解は深めていく必要がある	業務改善に対する要望があった際には、対応できる範囲で職員間で話し合いをし、改善につなげているが全職員の理解を得ることは難しい部分もある。その中で互いの主張をし合う環境ではなく、何を目標にして業務改善をしていくのかを検討できていくと良いのではないかと課題を感じる
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	13		毎年アンケートを実施している 保護者用の自己評価集計も職員にも周知している 毎年評価していただき、それを業務改善につなげている 保護者の意向はアンケートで把握しているが、内容を業務改善につなげ、認識のすり合わせはできていない	自己評価表の評価を受け、改善できる部分は改善している状態ではあるが、職員間での理解が難しいのも課題である。周知はしているが、今後も説明を丁寧にしていくことで理解を深めていきたいと思う
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	11	2	機会を設けているが、内容の改善は難しい その都度している 会議等で話し合いを行って意思が伝わりやすくしている 月1回の会議で設けている。内容は改善に向けたもので実践をし、その後の経過等は状態が変わったりする為、振り返りをし意見交換が全体であると良い	発達障がいへの職員全体での理解や支援についての課題がそれぞれ違うことが今後の課題であると感ずる
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		13	わからない 把握できていない	法人での外部評価は行っていない。施設で行うか今後検討する課題はある。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	13		毎月研修会を行っている 他の児童施設や療育の様子を見学に行けるような機会があればと思います 毎月職員全員で行っている 様々な研修につばみから参加させて貰っている パート以外の職員は研修の機会がある(外部)法人内で突発的に行うこともあり、意見交換ができて良いと思う。資質に関しては指導すべき人材が必要である。	必要と思われる研修会に参加できる際には促して参加をしている。全員回覧をし、希望があればパート職員でも研修に参加できる場合もあるが、希望が少ない。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	12	1		HPに掲載をしている。見やすさや内容等は今後職員間や保護者等に確認をしながら必要に応じて変更をしていき、理解に努めていきたいと思う
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	13		一人ひとりに合った計画書が作成されていると思う アセスメントや保護者のニーズを基に支援計画の作成が行われている モニタリングやアセスメントを行い、子どもそれぞれのニーズを把握して支援計画を作成している 定期的に関係者が面談を行っている。アセスメントを適切に行い、ニーズ、課題を分析しており、とても良い。そのように実践が望まれる	全職員が個別支援計画の内容を意識して、サポートを心がけていく事が子どもへの成長、発達へのアプローチにつながっていくと考えられている。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	12	1	児童の特性等、パートと職員の間でこれは？と感じる点もある。共通理解の下で検討、共通支援が求められるのではと感じている	児発管が担当等に子どもの状況やサポート方法を聞き、支援計画に盛り込むように配慮はしているが、成長・発達していく為にどう支援を行うのかという点での職員での共通理解が難しく、それぞれが一貫した支援で関わっていない現状も課題となる
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	11	2	職員間で共有を行い支援を行っている 詳しい支援計画が共有されていないので、わからない 回覧で共有している 全てが計画に沿っているかというそうではない。中途半端で終わってしまっていたり、現状のままであったりと、全体の振り返りは日々すべきであると感じる	主担当が支援計画に沿って支援を意識すると捉えている部分もあるので、全職員が一人ひとりの個別支援計画の内容を意識して支援することが大切であると考えられる。そのため共通理解・支援への理解をパート職員も含めて支援への意識を今後育てていかなければいけないと感じている。そのための意見を聞く等利用児処遇で検討はしている

適切な支援の提供	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	11	2	標準化されたツールを知らないのでは、確認ができない PCでの共有閲覧できるようにしていたり、個人記録の冊子の中にもきちんと保管されており、職員が誰でも見れる環境にはなっている 一人ひとり子どもにとっての支援課題を評価し、発達を促す取り組みは共通支援・理解に至っていないと感じる。個々の支援方法になっているような	発達障がい特化したアセスメントシートや医療的ケア児に配慮したアセスメントシート等を情報収集をした上で、事業所独自の書式で作成をしている。改善はその都度行っている。また、来年度からはパート職員もクラスを固定化することで意見や支援を自ら提案し、サポートできていくように検討している
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	13			ガイドラインや5領域を意識して作成を心がけてはいるが、職員全員がガイドラインを理解するための専門的な部分での勉強会を定期的に開催していきたいと思う
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	13		他の職員や児発管に相談しながら活動プログラムを作成している パートは立案に立ち合っていない。担当職員と児発管が決めているので、事前にならないとわからない（内容等説明のない時もある）	担当職員が1週間の立案を行う。その中でパート職員の配置を前日もしくは当日に変更等があるので、全職員での立案は難しいのが現状。来年度から、パート職員も含め固定化することで、立案、支援とできやすい環境が整うのではないかと検討している
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	11	2	曜日毎に活動内容を決め、固定化しないよう工夫している 月曜日～金曜日で活動の項目を作っている こどもの状況に応じて、運動、制作等の療育を行っている 最近では、制作活動（壁面）が重視されており、療育活動が以前より少なくなったと思う。指先の活動等もっと取り入れてほしいと思う	併行通園児も増えてきたので、欠席等に併いプログラムでの療育でのアプローチが継続的に難しい部分があることが課題。体幹の弱いこどもも増えてきて、軸作りができて手先の活動へアプローチ移行していく過程が継続的にできにくい部分が課題である
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	12	1	こどもに合わせて支援されている こどもの状況に応じて対応している 職員会議等で話し合いをして、こどもの状況に応じて個別活動、集団活動を組み合わせて計画を作成し、支援が行われている 全体での集団活動といった感じであるので、活動についていけなかったり、それ以前に理解しておらず、一人ひとりの弱い部分の把握に乏しく残念である	全職員でのこどもの把握した上で、工夫をしサポートできていくことが望ましい部分もある。主担当任せの部分もあるので、療育の目的や内容を学習する機会も全体で行っていかなければならない。その上で、気づいた職員が個々に合わせてアプローチをしてサポートできる環境を今後も検討して行きたいと思う
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	11	2	事前に話して行う事が多い 支援の内容確認はするが役割分担の指示ではなく連携できていない 朝礼をし確認している 役割分担が必要な事があれば伝えるようにしている。確認はホワイトボードに書いてあるので特には行っていない 担当職員間では打ち合わせを行っているようだが、パートに内容や役割分担での確認はチームとしてないと思う。どの子にサポートにつくかはあるが…。	パートの先生は毎日各クラスを変更で変わるので、役割分担では個別サポートの子につくことが多い。クラス毎で固定してみることで担当職員との情報共有が図りやすいか来年度は実施してみる
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	10	3	支援終了後に次の日の活動や職員配置を確認している 支援の振り返りがなく、気づいた点の共有ができていない 職員はその日に行っているが、パートは次の日にしている 終了後振り返りはない。振り返りがあると次回おなじことはないと思うが、気づきがなく意見交換があると共有して支援できると思うのですが	担当が検証するが、パートの先生との勤務時間の兼ね合いで打ち合わせや交えての検証ができないことが課題。来年度はクラス固定化することで検証しやすいかを実践してみる
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	12	1	記録は毎日しっかり行っている 毎日ケース記録を記入している メインの職員での記録はある。支援検証はパートを含め行い、意見交換していないので、改善につなげているのかというところかと思う	パートの先生は毎日各クラスを変更で変わるので、役割分担では個別サポートの子につくことが多い。クラス毎で固定してみることで担当職員との情報共有が図りやすいか来年度は実施してみる

	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	13		定期的に行っている 定期的にモニタリングを行い、こどもの発達に添った計画の見直しをしている 見直しの必要性は？日々パートを含め、振り返り意見交換がないので、見直しはできていない	定期的にモニタリングを行い、計画についての見直しを行い、こどもの支援内容について目標設定が高くないかを職員間で話し合いをしているが、パート職員を含めての会議は時間の都合上難しい部分があるため、できていないが今後クラスが固定化する事で意見の汲み取りはしやすくなるのではないかと感じる
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	13		担当者が会議に参加している。こどもの状況をよく理解しているが、現場で周知・指導しているかという現状が厳しい面がある	児発管が参加をしている。情報共有すべき点は担当職員に周知をし、支援での共通サポートに呼びかけを行っている
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	13		西田病院と連携している 地域の障害福祉課や一般相談員、保健師等と連携を図っている。情報の共有等も行う関係機関との連携していると思う	健康診断だけでなく、医療的ケア児も入所してくることから、連携したサポートや助言をより多くもらえるように努めていく
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	13		連携を取りながら行っていると思う 情報共有されることに対して不安定な保護者もいらっしゃるのでは、情報の扱いは難しいなと思いました モニタリング会議で情報を交換している 移行に向けてのモニタリングや情報の共有を図っている 相談員を含め、保育所等訪問支援、支援内容等の情報の共有を図っているこどもの状況に応じ、十分に把握した上で相互理解に努めている	併行通園をしているこども達の園と共通したサポートができるようにモニタリング時や送迎時に情報交換をし、相互理解に努めるように支援をしている
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	13		他園との情報共有を図りながら支援を行っている 会議や見学に来てもらい、情報を共有している 地域の支援学校や幼稚園の先生をモニタリングに呼び情報の共有を図っている	支援学校のコーディネーターの先生や教育委員会の先生への面談や情報提供を行う事で、支援内容や情報共有に努めている。また、児童の様子を特定相談員にも伝える事で切れ目のない支援を心がけている
	28	(28~30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	12	1	普段から他の事業所との連携を取っている	センターとしての機能を職員全員が理解していく為に、どう役割分担を図るかが今後の課題 部会等に参加をし、必要な情報を他の事業所に伝えていくようにしている
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	13		外部講師の先生からいただくアドバイスが大変参考になっています 外部研修に積極的に参加させてもらっている職員を外部研修に参加させている。助言・研修は必要であると感じる。専門知識ない為によりよい支援に繋がらない	専門的研修が年度末や他の研修に日程が重なっていたりと、研修会への参加ができないこともあるが、参加できる中で今後も研修に参加したり、外部講師からの助言を受けていきたいと思う
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	13		担当者が各部会に参加している	こども支援部会に参加をしている。また、地域のこどもに関する連絡会等も参加要請があれば積極的に参加をし意見交換をしている
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		13	コロナ過を過ぎてからないと思う 毎日利用のこどもは交流の機会がない 近くの小学校の運動会総練習の応援に参加した 併行通園していない子は交流を持つのが難しいのかなと思います 以前は交流があったそうだが、現在はない 活動する機会がないので、今後あるとよい。 幼稚園にあがる(行く)子に関しては、近くでのあり、数人連れて見学等に行けるので良いと思う	公園等での交流はあっても、施設に行き来しての交流が難しい点があり、今後の課題となる

	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	13		連絡帳や送迎時に伝えており、保護者と共通理解を持っている 対面やノート等で家庭の様子や園の様子等を聞いたり、伝えたりしている 担当職員が情報交換連絡を行っている	保護者により、課題や共通理解が難しいケースもある。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	13		ペアレント・プログラムが開催されている	参加者が年々軽減している中での実施が難しく、また、支援者等の確保も難しいことが課題であり、時間帯や対象を広げることを視野に今後は動いていくように準備、周知をする
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	13		入園時の説明で丁寧にしている 説明を行い、承諾を頂いている	入園時の説明で資料を一緒に見ながら丁寧に説明をしている。利用をしながらわからない点があればその都度質問を受け、対応するように配慮はしている
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	13		こども優先で考えられている モニタリング等で家族の思いを確認し、こどもの興味や意思と照らし合わせ計画書を作成している こどもの最善の利益の優先考慮を踏まえ職員員の要求を押し付けている場面も見られる。 個人の尊重とコミュニケーションを持って支援してほしい	子どもの発達のために頑張る部分、支援する部分の理解が難しく全サポートをする場合もあるので、自分でできる力のサポートが育ちにくい部分もある。対処療法での対応をしまいがちになる部分をこれからどのように共通支援・理解にむけていくのか職員間での学習も必要と感じる
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	13		支援計画書の内容の説明と同意をもらうようにしている	説明時には支援内容等をわかりやすく説明するようにし、記載するに当たっては、専門用語をあまり使わないように配慮している
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	13		相談があった場合は直ぐに対応する	担当職員や児発管での対応等で相談内容に応じて対応をしている。またケースによっては、特定相談員にも報告をする事で関係機関への連携を図るように工夫をしている
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	12	1	コロナ過からないと思う(保護者会) 保護者参観や行事等が交流の機会かなと思う 保護者通園日に話す機会がある 参観日に懇談会が開催できていて良かったと思います 兄弟同士での交流する機会を設ける等の支援をしているか知らない 親子参観やペアレントプログラム等保護者同士の交流の場を持っている	依然立ち上げた保護者会がコロナ過で活動停止し、そのままになっている。働いている保護者も多く、なかなか保護者会継続が難しいことが課題である。 保護者参観日の懇談会では普段の子育てでの悩み等を話してみたりと、保護者間での情報共有できる機会を工夫している
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	13		相談する時間を設け、対応をする 管理者に報告・相談の上対応できていると思う	相談があった際には、早急に対応できるように配慮している。状況に応じては特定相談員に伝え、調整会議等を緊急で開催してもらう事もある
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	13		毎月行っている 毎月園たよりを発行して、活動内容や行事予定を発信している	活動時の写真を多く掲載する事で、こどもの様子がわかりやすいように配慮している。また、行事予定もきちんと掲載をし周知するように配慮している。今後課題とすれば、活動以外での療育内容での通信も発信していく事で、家庭での関わり方等情報発信できていくと良いのではないかと感じている
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	13		している 個人情報の扱いには十分気を付けている	肖像に関しては、広報目的と園内使用のみとわかるので、来年度再度個人情報の同意確認を実施する予定
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	12	1	絵カードや写真を使っている 言葉だけでは伝わらない時は、視覚から情報を入れながら伝えている 絵カード等を活用できていると思います 意思の疎通、情報伝達できる視覚支援カードが活用されていない こどもはカードなどを使い分けやすいように伝達している その日の様子を担当職員から発信はしている	絵カード等作成をしているが、職員全員で活用するに至っていない。活用方法の理解が難しい部分もあるので、今後は職員での研修内容の一つとして盛り込む事で使い方等の理解が深められていくのではないかとと思うので課題としたい。
44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	10	3	招待などはしていないが、開園記念日におたよりやクッキーを配っている クリスマスのイベントやパネルシアター等の地域外部の人を招いていて図れていると思う	障がい特性もあり、多くの方を施設に招待することが難しいが、地域の方で希望があれば招いていきたいと思う。社会福祉協議会の研修での民生委員の方が今後も見学等にきてくれると良いと思うので、発信はしていきたいと考えている	

非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	13		実施している 定期的に行っている マニュアルを作成し毎月訓練をしている	マニュアルの作成等はできており、確認した時には直ぐに見れる状態にはしている。また、様々な環境での発生を想定した訓練も定期的に行っているので継続をしていきたい
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	13		毎月行っている 避難訓練等を毎月実施している 非常災害の発生に備え、定期的に避難訓練をしているが、救出その他必要な訓練はしていないので、想定してできると安心ではある	BCPの作成もしており、職員会議時に様々なパターンを想定しての周知、振り返りを行っている。今後も繰り返し行う中で様々な事を想定し、反省点や改善点が抽出できればと思う
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状態を確認しているか。	13		確認している 確認し、職員全員に周知している 入園児の聞き取りの中でこどもの状態を確認をしている 服薬等担当職員から情報はあ。細かい情報は不明であるが、概ね周知できていると思う	契約時に服薬や疾患等の聞き取りは丁寧にを行う。その後資料の回覧や周知は行うようにしている。今後も同じ対応を継続して行きたいと思う
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	13		されている 保護者から様子を聞き、職員間でも共有している 医師の診断書があれば対応している 事前に情報は調理員に伝えられている	契約時にアレルギーの聞き取りを行い症状がある際は医師の診断書の提出をお願いしている。その中で提供できる給食方法を保護者に伝え、対応をどのようにするのかを検討している。今後も継続して対応をしていきたいと思う。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	11	2	都度している 訓練や必要な措置を十分されているとは言えない 安全計画管理・に必要な研修・訓練・措置等は十分ではないと感じる。遊具の不備など早急に行わないといけない点もある	遊具の確認においては専門職に依頼はできていない。職員での目視や点検で済ませている。チェック簿を今後はきちんとわかりやすいように整備していきたいと思う。また、きちんと安全計画についての理解を深めていく事が今後の課題と言える
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	13		研修会があった	周知をしているが、理解まではどうなのか今後確認をしながらきちんと計画への理解を深めていきたいと思う
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	13		している 会議でヒヤリハットを検討し、職員間で共有を行っている 課題の整理や対応策を職員全員の中でまとめている 検討はしているが、共有できていない事がある 共有し、検討するが、同じようなヒヤリが出てしまう、何故だろうか。現場での緊張感がないのではないかと感じる	ヒヤリハットを提出したことにより、安心している部分もあると思う。また、ヒヤリハットを上げる事で、職員を責める要因にもなりつつある意識も課題である。 他人事としてとらえてしまう部分もあり、職員全体が自分にも起こりうる事としての意識を今後は育てていくように検討や報告する際には工夫をしていきたいと思う
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	13		虐待についての研修を実施している 定期的に研修を行っている 研修機会を設け職員間で周知している。 行き過ぎた支援…身体だけではなく心理面等こどもの特性を把握し、行き過ぎた支援も虐待につながるように留意すべきだと感じることもある。	職場内研修や外部研修で得たことを共有や検討を行う。適切な対応については、職員間での情報の共有や共通支援が上手く図れていない部分も課題となる。今後は一人ひとりの特性を理解した上で、どこを目指して療育・関わりを持つのかを職員全体で共通理解をしていくように会議等で情報交換はしていきたいと思う。
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	13		保護者に事前に確認をもらい、記載をしている	現在は身体拘束を行うような対象のこどもがいないので、研修会を通して理解を深めていきたいと思う	